

日本拳法防具改良要望書

昭和時代に比較して平成時代になってから鉄面打撃時の拳負傷が激増している。現在の防具は「日本拳法全国連盟防具規格」に基づき製作販売されている。競技の安全性向上対策として拳法防具の改良が必要であり、「日本拳法全国連盟防具規格」改善を要望する。

以下変更理由を列挙する。

記

1. 「日本拳法全国連盟防具規格」に基づく防具仕様では拳負傷の未然防止は困難である。
2. 頭部に装着する防具面としては重量過大であり、グローブで打撃するには鉄面格子状構造が粗過ぎ、過大な局所的打撃反力を生じ拳負傷原因になっている。
3. 頭部及び頸部損傷並びに拳負傷を未然に防止するにはグローブ改良と防具面改良を並行して実施する必要がある。
4. グローブ改良により、拳負傷の発生率を軽減出来るのは過去 10 年間の自衛隊徒手格闘術に於いての徳大式防具使用実績から明らかである。

以上

平成 27 年 6 月 26 日

徳島大学渭水拳友会 会長 山下佑治

〒771-0130 徳島市川内町加賀須野 511 番地 4